





令和2年度 さきもり応用コース **履修要綱**







目 次

1. 履修方法	2
1.1 カリキュラムの構成	
1.2 科目の基準	
1.3 成績評価	
1.4 成績評価に対する照会と申立手続きについて	
1.5 修了要件(必要科目数)	
	_
	5
2.1 テキスト代等その他の費用	
2.2 休講及び教室変更	
2.3 補講の方法	
2.4 呼び出し等	
2.5 授業時の注意	
2.6 受講の停止	
2.7 損害賠償	
2.8 附属施設の利用	
2.9 通学方法	
2.10 休日等の校舎への立ち入り	
2.11 その他	
3. 教育課程表	7
3.1 さきもり応用コース	
3.2 開講スケジュール	
4. 教授要目	l3
みえ防災塾の津波警報発表時の避難方法について2	20
三重大学構内図・アクセス	21

本履修要綱は、三重県・三重大学 みえ防災・減災センター(以下、センターと表記)の事業として実施するみえ防災塾の「さきもり応用コース」の履修に必要な事項を示したものであり、主な内容は履修方法、受講に係る留意事項、教育課程表、教授要目です。

この履修要綱の内容をよく読んで理解するとともに、必要となった時は、 これを参照して、履修に際して誤りのないように注意してください。

1. 履修方法

1.1 カリキュラムの構成

センターの事業として実施するみえ防災塾「さきもり応用コース」のカリキュラムは、5つの科目と1つの集中セミナーから構成されています。また、定められた修了要件(必要取得科目数)に従って履修する必要があります。修了するためには、3章の表1(7ページ)に示す教育課程表の中から、定められた必要科目を履修する必要があります。

図1(3ページ)にカリキュラムの全体構成を示します。

図2(3ページ)に入塾から修了までに必要となる履修方法等の流れを示します。

「さきもり応用コース」を修了すると、修了証書、「三重のさきもり」認定証、学校教育法第 105 条に基づく履修証明書を交付します。(大学院生には「三重のさきもり」認定証を交付します)

1.2 科目の基準

特論科目(科目名に"特論"と明示されている科目) 15 時間で 1 科目

演習科目(科目名に"演習"と明示されている科目) 30時間で1科目

実習科目(科目名に"特別研究"と明示されている科目) 90 時間で1科目

1.3 成績評価

履修した授業科目の成績は、AA・A・B・C・D の評語で評価され、AA・A・B・C を合格とします。

1.4 成績評価に対する照会と申立手続きについて

各科目の成績評価について疑問が生じた場合は、照会する事ができます。詳細については、三重大学のホームページに記載してあります。

具体的な手続きについては、センター又は学務部教務チームに問い合わせてください。 (学務部教務チーム 3番窓口 総合研究棟Ⅱ 1階 TEL 059-231-9712)

1.5 修了要件(必要科目数)

「さきもり応用コース」を修了するためには、1年以上在学し、指定の5科目の履修(さきもり特別研究による研究成果報告書の提出を含む)と集中セミナーを受講して、修了判定を受けなければなりません。



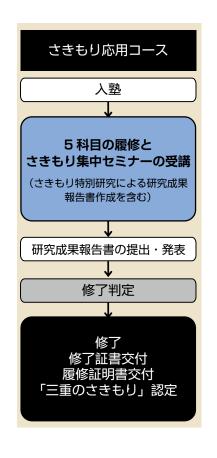


図1 カリキュラムの全体構成

図2 入塾から修了までの流れ

2. 受講に係る留意事項

2.1 テキスト代等その他の費用

受講生が授業で使用するテキストの代金及び授業に係るその他の費用は、受講生の負担となります。

2.2 休講及び教室変更

授業担当教員のやむを得ない事情等により、開講日、時限、教室を変更したり、講義 を取り止めたりする(休講)場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

なお、休講については、入塾の際に、調書に記入いただいた緊急連絡先(メール又は 携帯電話)に連絡させていただきます。

暴風警報・大雨警報時等の措置

三重県北部又は中部区域のいずれかの市町※1に、特別警報※2、暴風警報、暴風雪警報、伊勢湾に大津波警報、津波警報のいずれかが発表された場合の授業(成果報告会合む)(以下授業等と表記)は休講とする。ただし、これらの警報が解除された場合は次のとおり取り扱うものとする。

- (1)発表された特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大津波警報、津波警報のいずれかが午前6時までに解除されない場合は、午前の授業等を休講にする。
- (2)発表された特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大津波警報、津波警報のいずれかが午前10時までに解除されない場合は、午後の授業等を休講にする。

みえ防災塾長は、次の場合、センターに休講措置を指示するものとする。

- (1)津市に大雨警報及び洪水警報が同時に発表され、本学周辺に洪水が発生又はその おそれがある場合
- (2) 三重県北部又は中部区域のいずれかの市町に大雨警報及び洪水警報が同時に発表され、交通機関への影響により通学が困難である場合又はそのおそれがある場合
- (3) 三重県北部又は中部区域のいずれかの市町に大雪警報が発表され、交通機関への 影響により通学が困難である場合又はそのおそれがある場合
- (4) 上記以外の場合において、授業等を実施することが困難であると予想される場合

交通スト又は悪天候等により通学困難な場合の取り扱いについて

(1) 各講義担当教員は、交通スト又は悪天候等により通学困難な受講生が授業等を欠席した場合において、受講生の申し出に基づき、その受講生が通学不能であったと判断した時は、本人の不利益にならないよう配慮するものとする。

% 1

「いずれかの市町」とは下記に示す市町

三重県北部区域:桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、

木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

三重県中部区域:津市、松阪市、多気町、明和町

※ 2

「特別警報」とは下記に示すもの 大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪の各特別警報

2.3 補講の方法

やむを得ない事情(急な公務や出張、病気等)で、欠席した授業について、補講を受けることにより、授業への出席と認める場合があります。

補講の方法について、詳しくはセンターにお問い合わせください。

2.4 呼び出し等

授業中その他、受講生への連絡や呼び出しには応じられません。

2.5 授業時等の注意

- (1) 授業の途中での教室への入退室は、授業の妨げになりますのでご遠慮ください。
- (2) 授業中は携帯電話は、マナーモードにして下さい。
- (3) 受講にあたり、本学が行う教育及び研究に支障をきたさないよう努めていただく とともに、授業担当教員及び事務局職員の指示に従ってください。

2.6 受講の停止

受講生は、授業時の注意に違反し、又はふさわしくない言動等を行い、本学の秩序を 乱した場合は、その者の受講を停止させることもあります。

なお、受講停止の場合であっても、既納の授業料・受講料は返還できません。

2.7 損害賠償

受講生は、故意又は重大な過失により本学の施設、設備等を滅失、損傷又は毀損した時は、速やかにセンターに届け出るとともに、これを原状に回復し、又はその損害を賠償することが求められます。

2.8 附属施設の利用

受講生は、大学の附属図書館や食堂等が利用できます。

2.9 通学方法

本学では、受講生の自動車通学は原則として禁止していますので、公共交通機関を利用してください(21ページをご参照ください)。

2.10 休日等の校舎への立ち入り

開講日以外の土曜日、日曜日、祝日、夏季一斉休業日、臨時休業日、年末年始等は、 校舎に立ち入ることはできません。

2.11 その他

- (1) 既納の検定料、入学料および授業料・受講料はいかなる事情があっても返還できません。
- (2) 通学定期や学割の使用はできません。

3. 教育課程表

3.1 さきもり応用コース科目

表1 さきもり応用コース

授 業 科 目 名	担当教員
防災実践基礎特論	三重県防災対策部職員、葛葉泰久(生物資源学研究科)、川口淳(工学研究科)、磯和勅子(医学系研究科)、宗方恵美子(特定非営利活動法人イコールネット仙台)、長谷川聡子(株式会社 Will Staff)、石井美恵子(国際医療福祉大学大学院)、吉井博明(東京経済大学)
防災実践基礎演習	寒川旭(産業技術総合研究所)、川本孝司(津市立大三小学校)、津地方気象台職員、立花義裕(生物資源学研究科)、山本康史(特定非営利活動法人みえ防災市民会議)、阿部郁男(常葉大学)、中井茉里(伊勢赤十字病院)、津市消防本部職員、南部美智代(特定非営利活動法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿)、日野宗門(Blog 防災・危機管理トレーニング)、印南京子(管理栄養士)、三重県防災対策部職員、みえ防災・減災センター職員、中村保親(津市南が丘地区自主防災協議会)
防災実践応用特論	鈴木康弘(名古屋大学)、水谷法美(名古屋大学)、宮岡邦任(教育学部)、川合一明(地域地震情報株式会社)、溝口明(医学系研究科)、 磯和勅子(医学系研究科)、三宅諭(岩手大学)、中林一樹(明治大学)、阿部寛之(社会福祉法人山田町社会福祉協議会)、浅野聡(工学研究科)
防災実践応用演習	花里利一(工学研究科)、山本貴正(愛知工業大学)、酒井俊典(生物資源学研究科)、葛葉泰久(生物資源学研究科)、飯島慈裕(生物資源学研究科)、沼本晋也(生物資源学研究科)瀧本浩一(山口大学)、市古太郎(首都大学東京)、川合一明(地域地震情報株式会社)、小林哲(医学部附属病院)、丸山一男(医学系研究科)、平松万由子(医学系研究科)、服部由佳(医学系研究科)、北川亜希子(医学系研究科)、浅野聡(工学研究科)、高田裕市(株式会社都市環境研究所)、大野研(教養教育院)
さきもり集中セミナー	浅海義治 (練馬みどりのまちづくりセンター)、飯田正美 (防災室)、 三重県警察本部職員、津市消防本部職員、自衛隊三重地方協力本部 職員、塚本明 (人文学部)、津久井進 (芦屋西宮市民法律事務所)、 国土交通省中部地方整備局職員
さきもり特別研究	各指導教員

3.2 開講スケジュール

	2020年6月						2020年7月						
日	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00		旦	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00	
1	月						1	水					
2	火						2	木					
3	水						3	金					
4	木						4	±					
5	金		ゴイダンス				5	日	基礎	特論第二	3 回		
6	±	9:30~11	O:15 (予定)				6	月	石井	吉	井		
7	日	基礎	特論第	1 0			7	火					
8	月	県職員	葛葉	三二			8	水					
9	火						9	木					
10	水						10	金					
11	木						11	土	特別研究 ② 10:00~	応月]演習 第	1回	
12	金						12	日		花里	山本	貴正	
13	±						13	月					
14	日						14	火					
15	月						15	水					
16	火						16	木					
17	水						17	金					
18	木						18	Ŧ					
19	金						19	П	基礎	演習第	1 🗇		
20	±		研	究成果公開	シンポジウ	ンム	20	月	寒川	川本	気象台		
21	日	基礎	特論第二	2回			21	火					
22	月	磯和	宗方	長谷川			22	水					
23	火						23	木					
24	水						24	金					
25	木		の 応用コーラ				25	土					
26	金	八子 川 1	(ダンス含)	J			26	日					
27	土	特別研究 ① 10:00~	応用	月特論 第	1 🗓		27	月					
28	日		鈴木	水谷	宮岡		28	火					
29	月						29	水					
30	火						30	木					
							31	金					

授業は土曜日午後(13:00 \sim 18:00)の開講を基本とし、原則として、講義は工学部にて行いますが、さきもり集中

	2020年8月						2020年9月						
日	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00		B	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00	
1	H						1	火					
2	日	基礎	演習第二	2 回			2	水					
3	月	中井	山本康史	阿部郁男			3	木					
4	火						4	金					
5	水						5	±	特別研究 ④ 10:00~	応用]演習 第	3 回	
6	木						6	日			瀧本		
7	伷						7	月					
8	±						8	火					
9	日						9	水					
10	月						10	木					
11	火						11	金					
12	水						12	±					
13	木						13	日	基礎	演習 第	5 回		
14	金						14	月	市町職員	日	野		
15	±						15	火					
16	日						16	水					
17	月						17	木		スキ	ルアップ研 要申請	f修	
18	火						18	金			V		
19	水						19	±	特別研究 ⑤ 10:00~	さきもり集	中セミナー	· 第1回	
20	木						20	Ш			浅海		
21	金		酒井・	葛葉・飯島	・沼本		21	月					
22	±	特別研究 ③ 10:00~	応用]演習 第2	2 回		22	火					
23	日	基礎	演習第二	3 回			23	水					
24	月	中井	津沁	当防			24	木					
25	火						25	金					
26	水						26	土			予備日		
27	木						27	日	ā	みえ風水害	対策の日:	シンポジウム	٨
28	金						28	月					
29	±						29	火					
30	日	基礎	演習第一	4 回			30	水					
31	月	今井	南	部									

セミナーは環境・情報科学館(MEIPL)で行います。

			2020年11月									
日	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00	日	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00	
1	木					1	日					
2	金					2	月					
3	土					3	火					
4	日	基礎	演習第	6回		4	水					
5	月	印南	県職員	センター 職員		5	木					
6	火					6	金					
7	水					7	±			予備日	•	
8	木					8	日		オー	プンキャン	パス	
9	金					9	月					
10	土					10	火					
11	日					11	水					
12	月					12	木					
13	火					13	金					
14	水					14	±	特別研究 ⑨ 10:00~	応用 応用	引特論 第3 日演習 第 6	3 回 6 回	
15	木					15	日		溝口	小林	丸山	
16	金			市古	•	16	月					
17	土	特別研究 ⑥ 10:00~	応用]演習 第 4	4 回	17	火					
18	日			予備日		18	水					
19	月					19	木					
20	火					20	金					
21	水					21	±					
22	木					22	日					
23	金					23	月					
24	±			災コーディ 資格所得希		24	火					
25	日	基礎演習 第7回	を受け	る。 		25	水		7.4.4.			
26	月	中村	認定式	防災士試験		26	木		スキルア 要(ップ研修 申請		
27	火					27	金		飯田	警察・消	方・自衛隊	
28	水					28	±		さきもり集	中セミナー	第2回	
29	木					29	日	ä	みえ地震対	策の日 シ	ノンポジウム	A
30	金			川合		30	月					
31	土	中間報告会特別研究 ⑦ ⑧		日 日 日 演習 第								

	2020年12月									202	1年1月	
日	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00		日	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 18:0
1	火						1	金				
2	水						2	±				
3	木						3	日				
4	金						4	月				
5	±	特別研究 ⑩ 10:00~	応用 応用	持論 第 演習 第	4 回 7 回		5	火				
6	日		磯和・	平松・服部	3・北川		6	水				
7	月						7	木				
8	火						8	金				
9	水						9	土	特別研究 ⑫ 10:00~	応用	計論 第	5回
10	木						10	日		三宅	中林	阿部寬
11	金						11	月				
12	土						12	火				
13	日						13	水				
14	月						14	木				
15	火						15	金				
16	水			 + → →	∤ ₹π <i>₩</i> ⋝		16	±		* :	学センター	-計騇
17	木			キルアップ 要申請			17	日				D-Viol X
18	金						18	月				
19	±	特別研究 ⑪ 10:00~	さきもり集	中セミナー	第3回		19	火				
20	日		塚本	国交省	津久井		20	水		— 7.	 キルアッフ	乳球板
21	月						21	木			キルアップ 要申請	
22	火						22	金				
23	水						23	±	特別研究 ③ 10:00~	応用 応用	計論 第 計演習 第	6 回 8 回
24	木						24	日		浅里	・大野・	高田
25	金						25	月				
26	土						26	火				
27	日						27	水				
28	月						28	木				
29	火						29	金				
30	水						30	±				
31	木						31	日				

	2021年2月							2021年3月					
日	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00		日	曜	10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30	14:45 ~ 16:15	16:30 ~ 18:00	
1	月						1	月					
2	火						2	火					
3	水			L 11	TT 147		3	水					
4	木			キルアップ 要申請			4	木					
5	金						5	金					
6	±		研さきもり特別	究成果報告	会 4回·15回		6	±					
7	日						7	日					
8	月						8	月					
9	火						9	火					
10	水						10	水					
11	木						11	木					
12	金						12	金					
13	±			予備日			13	±		修了式	修了証	書授与	
14	日						14	日					
15	月						15	月					
16	火						16	火					
17	水						17	水					
18	木						18	木					
19	金						19	金					
20							20	±					
21	日						21	日					
22	月						22	月					
23							23	火					
24	水						24	水					
25							25	木					
26							26	金					
27	土						27	土					
28	日						28	日					
							29	月					
							30	火					
							31	水					

4. 教授要目

防災実践基礎特論

防災実践基礎演習

防災実践応用特論

防災実践応用演習

さきもり集中セミナー

さきもり特別研究

防災実践基礎特論

学期:通年 対象:さきもり応用コース 授業種別:講義

キーワード・テーマ:レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項(災害をもたらす自然現象、三重県の防災・減災、ファシリテーション、避難所の運営)授業の目的・概要:レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項(災害をもたらす自然現象、三重県の防災・減災、ファシリテーション、避難所の運営)について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。

学生の到達目標:レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。

受講要件:特になし。

教科書・参考書:指定しない。講義中にプリントを配布する。 成績評価方法と基準:成績評価方法と基準:8講座の中6講座以上の出席者を成績評価の対象とする。期末レポート(100点)の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。 なお、「普通救命講習」、「図上訓練」および、「避難所運営ゲーム(HUG)」、「被災者支援」、「初動対応」の3講座のうちのいずれか1講座については受講を必須とする。但し、「普通救命講習」については、別途消防本部等で普通救命講習以上を受講し、所有する修了証により有効期間内にあると認められる者はこの限りではない。

オフィスアワー: 問い合わせは E メールにて

・みえ防災・減災センター(center@dimo.mie-u.ac.jp)

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割

10:30 ~ 12:00	・特論 85 分・質疑応答 5 分
12:00 ~ 13:00	・昼休憩
13:00 ~ 14:30	・特論 85 分・質疑応答 5 分
14:30 ~ 14:45	・休憩
14:45 ~ 16:15	・特論 85 分・質疑応答 5 分
16:15 ~	・事務連絡

対比表

応用コース	基礎コース
防災実践基礎特論	みえ防災コーディネーター育成講座
講義 1	講座 1
講義 2	講座 2
講義3	講座 3
講義 4	講座 4
講義 5	講座 5
講義 6	講座 6
講義 7	講座 7
講義 8、9	講座8避難所運営ゲーム(HUG)

学習内容

第1回

特論 1 三重県の防災・減災対策 三重県防災対策部職員

特論 2 災害をもたらす自然現象(地震・津波・風水害) 葛葉泰久(生物資源学研究科)

特論 3 みえの防災文化づくり 川口淳(工学研究科)

第2回

特論 4 災害時要配慮者対策 磯和勅子(医学系研究科)

特論 5 防災・災害復興における女性の視点 宗方恵美子(特定非営利活動法人イコールネット仙台)

特論 6 ファシリテーション能力の向上 長谷川聡子(株式会社 Will Staff)

第3回

特論 7 避難所の環境と健康 石井美恵子(国際医療福祉大学大学院)

特論 8、9 避難所運営ゲーム (HUG) 吉井博明 (東京経済大学)

学習課題 予習・復習

各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

防災実践基礎演習

学期:通年 対象:さきもり応用コース 授業種別:演習

キーワード・テーマ:レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項(気象災害、防災情報の活用、初期対応、被災者支援、防災教育とリスクコミュニケーション、災害時の食事と心のケア、災害に備える地域力)

授業の目的・概要:レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項(気象災害、防災情報の活用、初期対応、被災者支援、防災教育とリスクコミュニケーション、災害時の食事と心のケア、災害に備える地域力)について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し取り上げたテーマに関する理解を深める。学生の到達目標:レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し、取り上げ

たテーマに関する理解を深める。

受講要件:特になし。

教科書・参考書:指定しない。講義中にプリントを配布する。 成績評価方法と基準:16 講座の中12 講座以上の出席者 を成績評価の対象とする。期末レポート(100 点)の結果 に基づき、60 点以上の者を合格とする。

なお、「普通救命講習」、「図上訓練」および、「避難所運営ゲーム(HUG)」、「被災者支援」、「初動対応」の3講座のうちのいずれか1講座については受講を必須とする。但し、「普通救命講習」については、別途消防本部等で普通救命講習以上を受講し、所有する修了証により有効期間内にあると認められる者はこの限りではない。

オフィスアワー:問い合わせは E メールにて

・みえ防災・減災センター(center@dimo.mie-u.ac.jp)

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割

10:30 ~ 12:00	・演習 85 分・質疑応答 5 分
12:00 ~ 13:00	・昼休憩
13:00 ~ 14:30	・演習 85 分・質疑応答 5 分
14:30 ~ 14:45	・休憩
14:45 ~ 16:15	・演習 85 分・質疑応答 5 分
16:15 ~	• 事務連絡

対比表

応用コース 防災実践基礎演習	基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座
演習 1	講座 9
演習 2	講座 10
演習 3	講座 11
演習 4	講座 12
演習 5	講座 13
演習 6	講座 14
演習 7	講座 15
演習 8、9	講座 16 普通救命講習
演習 10	講座 17
演習 11、12	講座 18 被災者支援・図上訓練
演習 13	講座 19
演習 14、15	講座 20 初動対応・図上訓練
演習 16	講座 21
演習 17	講座 22
演習 18	講座 23
演習 19	講座 24

学習内容

公	1	ы
カ	1	ш

演習 1 地震災害史 寒川旭(産業技術総合研究所) 演習 2 防災教育の現状と展望〜教育現場と地域の関わり〜 川本孝司(津市大三小学校) 演習 3 防災情報の活用 津地方気象台職員

第2回

演習 4 気象学、楽しく学べば、怖くない! 立花義裕(生物資源学研究科)

演習 5 ボランティア 山本康史 (特定非営利活動法人みえ防災市民会議)

演習 6 津波から命を守るために 阿部郁男(常葉大学)

第3回

演習 7 災害時のこころのケア 中井茉里 (伊勢赤十字病院)

演習 8、9 普通救命講習 津市消防本部

第4回

演習 10 災害医療と応急対応 今井寛(医学部附属病院)

演習 11、12 被災者支援・図上訓練 南部美智代(特定非営利活動法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿)

第5回

演習 13 市町行政の取り組み 市町職員 演習 14、15 初動対応・図上訓練 日野宗門(Blog 防災・危機管理トレーニング)

第6回

演習 16災害時の食事印南京子(管理栄養士)演習 17My まっぷラン三重県防災対策部職員演習 18タウンウォッチングみえ防災・減災センター職員

第7回

演習 19 自主防災組織などの先進事例 中村保親 (津市南が丘地区自主防災協議会)

学習課題 予習・復習

各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

防災実践応用特論

学期:通年 対象:さきもり応用コース 授業種別:講義

キーワード・テーマ:レジリエンスの視点を踏まえた地域 における自然災害の特徴(ハザードのメカニズム)と防災・ 減災のための各種計画(地震対策、風水害対策、企業の 対応行動、災害医療体制、防災まちづくり)の策定および 地域の現場での実践手法(タウンウォッチング、災害図上 訓練、災害時要配慮者)

授業の目的・概要:レジリエンスの視点を踏まえた地域に おける自然災害の特徴(ハザードのメカニズムを理解し、 防災・減災のための各種計画(地震対策、風水害対策、 企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり)の策定 および地域の現場での実践手法(タウンウォッチング、災 害図上訓練、災害時要配慮者)について、必要な専門基 礎知識や特徴的な実例を解説する。必要な専門基礎知識 や特徴的な実例を解説できることを目的とする。

学生の到達目標:レジリエンスの視点を踏まえた地域にお ける自然災害の特徴を理解し、防災・減災のための各種計 画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な 専門基礎知識や特徴的な実例を解説できる。

受講要件:特になし。

教科書・参考書:指定しない。講義中にプリントを配布する。 成績評価方法と基準:講義全 10 回の中 7 回以上(70% 以上)の出席者を成績評価の対象とする。レポート(100点) の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

オフィスアワー: 問い合わせは E メールにて

・みえ防災・減災センター(center@dimo.mie-u.ac.jp)

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割

第1回、第5回 13:00~14:30 ・特論 85 分・質疑応答 5 分 14:30~14:45 ・休憩 14:45~16:15 ・特論 85 分・質疑応答 5 分 16:15~16:30 ・休憩 16:30~18:00 ・特論 85 分・質疑応答 5 分 18:00~18:10 ・達成度テスト、レポート 10分

第2回、第3回、第4回、第6回 13:00~14:30 ・特論 85 分・質疑応答 5 分

14:30 ~ 14:45 ・休憩

学習内容

第1回

鈴木康弘 (名古屋大学) ハザードのメカニズム(地震) 特論 1 特論 2 ハザードのメカニズム(津波) 水谷法美 (名古屋大学) 特論3 自然災害対策にみるレジリエンス 宮岡邦任 (教育学部) 第2回

川合一明(地域地震情報株式会社) 特論 4 企業の対応行動の計画

第3回

特論 5 災害医療体制の計画 溝口明 (医学系研究科)

第4回

特論6 現場で使える実践手法 (要配慮者) 磯和勅子 (医学系研究科)

第5回

三宅論(岩手大学) 特論 7 東日本大震災後の復興の課題 中林一樹 (明治大学) 特論 8 復興まちづくり

特論 9 被災地の行政職員の支援課題 阿部寬之(社会福祉法人山田町社会福祉協議会)

第6回

特論 10 防災まちづくりの計画 浅野聡 (工学研究科)

学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

防災実践応用演習

学期:通年 対象:さきもり応用コース 授業種別:演習

キーワード・テーマ:レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画(地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり)の策定および地域の現場での実践手法(タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者)

授業の目的・概要:レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画(地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり)の策定および地域の現場での実践手法(タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者)について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎を習得する。基礎への理解を深め、修得することを目的とする。学生の到達目標:レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法

について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や 策定手法、実践手法の基礎の基礎への理解を深め、説明 できる。

受講要件:特になし。

教科書・参考書:指定しない。講義中にプリントを配布する。 成績評価方法と基準:講義全20回の中14回以上(70% 以上)の出席者を成績評価の対象とする。レポート(100点) の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

オフィスアワー: 問い合わせは E メールにて

・みえ防災・減災センター (center@dimo.mie-u.ac.jp)

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割

j	B	7	旦	~	4	Ī	긔			
_	_		_			_	_	_		

13:00 ~ 14:30 ・演習 85 分・質疑応答 5 分

14:30~14:45 ・休憩

14:45~16:15 ・演習 85 分・質疑応答 5 分

16:15 ~ 16:30 ・休憩

16:30~18:00 ・演習 85 分・質疑応答 5 分

18:00~18:10 ・達成度テスト、レポート 10分

第5回~8回

14:45 ~ 16:15 ・演習 85 分・質疑応答 5 分

16:15 ~ 16:30 ・休憩

16:30 ~ 18:00 ・演習 85 分・質疑応答 5 分

18:00~18:10 ・達成度テスト、レポート 10分

学習内容

第1回

演習 1 地震対策の計画(建築物の災害対策) 花里利一(工学研究科)

演習 2、3 地震対策の計画 山本貴正

第2回

演習 4 地盤の災害対策 酒井俊典(生物資源学研究科) 演習 5 風水害対策の計画 葛葉泰久(生物資源学研究科)

演習 6 土砂災害対策の計画・グループディスカッション 飯島慈裕、沼本晋也(生物資源学研究科)

第3回

演習 7、8、9 現場で使える実践手法(災害図上訓練) 瀧本浩一(山口大学)

第4回

演習 10、11、12 現場で使える実践手法(タウンウォッチング) 市古太郎(首都大学東京)

第5回

演習 13、14 企業の対応行動の計画(ワークショップ) 川合一明(地域地震情報株式会社)

第6回

演習 15災害医療体制の計画小林哲(医学部附属病院)演習 16災害医療体制の計画丸山一男(医学系研究科)

第7回

演習 17、18 現場で使える実践手法(要配慮者・グループディスカッション)

平松万由子、服部由佳、北川亜希子(医学系研究科)

第8回

演習 19、20 防災まちづくりの計画 (ワークショップ)

浅野聡 (工学研究科)、高田裕市 (株式会社都市環境研究所)、大野研 (教養教育院)

学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

さきもり集中セミナー

学期:夏期 対象:さきもり応用コース 授業種別:講義・演習

キーワード・テーマ:レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための地域または企業等における各種計画の策定および地域の現場での実践手法(地域での対応行動、コミュニケーションの基本と実践、ファシリテーションの基本と実践)

授業の目的・概要:レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための地域または企業等における各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例のうち、3つのテーマについて集中して解説する。

学生の到達目標:レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための地域または企業等における各種計画の策定および地域の現場での実践手法への理解を深め、説明できる。

受講要件:特になし。

教科書・参考書:指定しない。講義中にプリントを配布する。 成績評価方法と基準:講義全8回の中6回以上(70%以上) の出席者を成績評価の対象とする。レポート(100点)の 結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

オフィスアワー: 問い合わせは E メールにて

・みえ防災・減災センター (center@dimo.mie-u.ac.jp)

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割

第1回、第3回	
13:00 ~ 14:30	・演習 85 分・質疑応答 5 分
14:30 ~ 14:45	・休憩
14:45 ~ 16:15	・演習 85 分・質疑応答 5 分
16:15 ~ 16:30	・休憩
16:30 ~ 18:00	・演習 85 分・質疑応答 5 分
18:00 ~ 18:10	・達成度テスト、レポート 10 分

第 2 回	
13:00 ~ 14:30	・演習 55 分・質疑応答 5 分
14:30 ~ 14:40	・休憩
14:40 ~ 15:40	・演習 55 分・質疑応答 5 分
15:40 ~ 15:50	・休憩
15:50 ~ 16:50	・演習 55 分・質疑応答 5 分
16:50 ~ 17:00	・休憩
17:00 ~ 18:00	・演習 55 分・質疑応答 5 分
18:00 ~ 18:10	・達成度テスト、レポート 10 分

学習内容

第1回

演習 1 ファシリテーションの基本と実践 浅海義治(練馬みどりのまちづくりセンター)演習 2、3 ファシリテーション(ワークショップ) 浅海義治(練馬みどりのまちづくりセンター)

第2回

演習 4 地域との連携 (訓練) 飯田正美 (防災室)

演習 5、6、7 行政機関による災害対応活動 三重県警察本部、津市消防本部、自衛隊

第3回

演習 8 災害史 塚本明(人文学部)

演習 9 防災関連制度の変遷 津久井進(芦屋西宮市民法律事務所)

演習 10 東海地方の復興対策の展望 国土交通省中部地方整備局職員

学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

さきもり特別研究

学期:通年 対象:さきもり応用コース 授業種別:講義・演習・実習

キーワード・テーマ:特別研究

授業の目的・概要:地域または企業等における防災計画あるいは実践に関する研究テーマを受講生自ら設定し、指導教員の指導のもとで、調査研究の方法、研究成果報告書の編集方法や発表方法を学習しながら研究成果報告書の作成に取り組み、防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得する。レジリエンスの視点からみた防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得することを目的とする。

学生の到達目標:特別研究を通して、設定した研究目標を 達成するために必要な論理的思考、研究成果報告書の編 集や発表・討論する能力や技術を習得する。

受講要件:特になし。

教科書・参考書:指定しない。講義中にプリントを配布する。 成績評価方法と基準:研究に対する取り組み姿勢、制作 過程、研究成果報告会における発表と討論、研究成果報告 書を100点満点で評価し、60点以上の者を合格とする。

オフィスアワー:問い合わせは E メールにて各講義を担当する三重大学教員まで。

- · 浅野 聡 (asano@arch.mie-u.ac.jp)
- · 葛葉泰久 (kuzuha@bio.mie-u.ac.jp)
- ・宮岡邦任 (miyaoka@edu.mie-u.ac.jp)
- ·川口 淳 (jkawa@arch.mie-u.ac.jp)
- ・飯島慈裕 (yiijima@bio.mie-u.ac.jp)
- ・水木千春 (mizkichi@crc.mie-u.ac.jp)
- ・みえ防災・減災センター (center@dimo.mie-u.ac.jp)

授業計画・学習の内容と課題

授業の時間割

通常(120分) 10:00~12:00

中間報告会(120分 休憩含む)

研究成果報告会(240分程度 休憩含む)

学習内容

第1回 研究指導ゼミ(研究テーマの整理とグループ分け)

第2回 研究指導ゼミ(研究テーマとグループの決定、研究成果報告書作成のガイダンス)

第3回 研究指導ゼミ (グループ別指導)

第4回 研究指導ゼミ (グループ別指導)

第5回 研究指導ゼミ (グループ別指導)

第6回 研究指導ゼミ (グループ別指導)

第7回 中間報告会

第8回 中間報告会

第9回 研究指導ゼミ (グループ別指導)

第10回 研究指導ゼミ(グループ別指導)

第11回 研究指導ゼミ (グループ別指導)

第12回 研究指導ゼミ (グループ別指導)

第13回 研究指導ゼミ (グループ別指導、発表練習)

第14回 研究成果報告会

第15回 研究成果報告会

学習課題 予習・復習

<予習> 論文作成過程の各段階において前段階の内容を確認し、次の段階に必要な作業を予測して準備する。 設定した研究テーマに応じて、研究対象地域における現地調査、文献調査、関係者へのヒアリング調査などを実施する。 <復習>論文作成課程の各段階終了後に、内容を確認する。

みえ防災塾の津波警報等発表時の避難方法について(平成30年10月19日改訂)

1. 津波警報の種類と避難方法について

「みえ防災塾| 開講時に津波警報等が発表された場合の避難方法および避難先を定める。

津波警報・注意報 の分類	予想される 津波の高さ 発表基準	表現	表現 津市災害対策本部の 避難勧告・指示等		みえ防災塾の避難行動		
大津波警報	10m 超 10m	巨大	避難指示(緊急)	平日	垂直避難 学内1次避難		
八井収言報	5m	巨人	世無相外(糸心)	休日等	学外避難		
油油数却	2	克·、	\D; ## \$\ /-	平日	垂直避難 学内1次避難		
津波警報	3m	高い	といい。 という という という という という という という という という という	休日等	学外避難		
津波注意報	1m	表記しない	無し	学内待機			
警報なし (強い揺れ: 震度 5 強以上)			無し	学内待機			
警報なし (長時間ゆっくり した揺れ)			無し		学内待機		

表1 みえ防災塾の津波警報等発表時の避難行動基準

2. 避難実施要領

(1) 避難指示などの発表

気象庁から津波警報(津波警報、大津波警報)が発表された場合の避難行動は、津波警報・注意報の分類に応じ表1に示すものとする。学外の避難場所又は、学内の最寄校舎棟(5階以上)に避難を実施する。(2)津波避難先及びルート

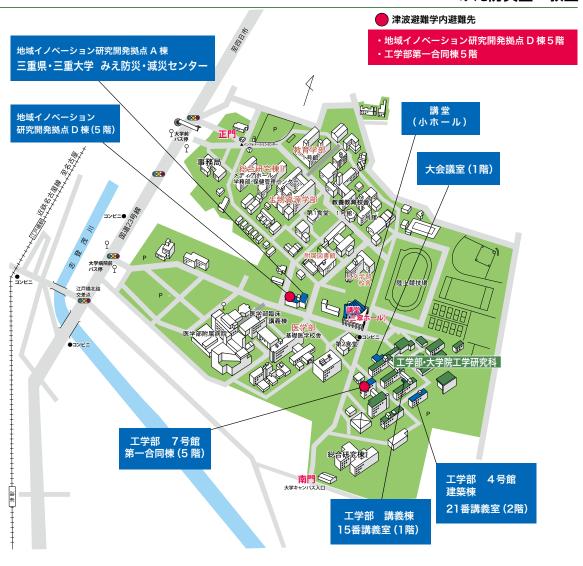
- ①津波警報および大津波警報発表時の学外避難先は、三重県総合文化センターとする。 避難ルートは図1を基本とするが、避難ルートの被害状況に応じ臨機応変に対応する。
- ②負傷者により学外避難が困難な場合、新江戸橋橋梁が損壊し橋梁通過が困難な場合、市街地が通行障害等により学外避難ができない場合は学内の所在棟の5階以上に避難を行う。
- ③学内避難の避難先は所在棟の5階以上とするが、所在等に5階以上がない場合の避難先は次の通りとする。また避難先を右ページの三重大学構内図に示す。
 - ・工学部第一合同棟5階
 - ・地域イノベーション研究開発拠点 D 棟 5 階

●情報収集源

津市の防災行政無線及び警鐘信号・サイレン信号、三重大学緊急放送システムの放送、電話、テレビ・ ラジオ、必要に応じ目視等により情報収集を行う。



図−1 学外津波避難経路の例



アクセス



●三重大学までの交通案内

①近鉄江戸橋(三重大学前)駅下車 徒歩約20分

②JR 東海又は近鉄津駅下車

津駅東口バスのりば「4番」から

三重交通路線バス 乗車

→ 「大学病院前」バス停 下車 徒歩約10分

乗車バスの行先

- ■「白塚駅」(06 系統)■「千里駅」(40 系統)
- ■「三重病院」(51 系統)■「椋本(むくもと)」(52 系統)
- ■「豊が丘」(52 系統)
- ■「サイエンスシティ」(52系統)
- ■「三行(みゆき)」(53系統)
- ■「高田高校前」(56系統)
- ③津駅から タクシーで約10分
- ④伊勢自動車道「津 I.C.」から約20分「芸濃 I.C.」から約25分



文部科学大臣認定

「職業実践力育成プログラム」(BP)に採択(平成28年12月)

「職業実践力育成プログラム(BP)」とは…

大学・大学院・短大・高等専門学校における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラム

【目的】大学・大学院・短大・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な 能力の向上を図る機会を拡大すること。(教育再生実行会議の提言を制度化)

【認定】文部科学大臣が認定するプログラム

本プログラムの特徴

参考:全国の認定プログラム件数 合計252件(平成27~30年度)

- ・「防災分野」で全国初の認定プログラムであること。
- ・大学院(工学研究科 特別の課程)に設置したプログラムであること。
- ・経営、産業、医療、福祉等の分野が多い中で、他大学等にはない「防災分野」をテーマとしたオリジナリティに富む内容であること。



ジャパン・レジリエンス・アワード2015(強靭化大賞)の金賞(教育機関部門)を受賞!

内閣府が進める「国土強靭化基本計画」を産学官民のオールジャパンで推進することを目的に「一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会」が設立され、強靭化 (レジリエンス) 社会の構築に向けた取り組みとして「ジャパン・レジリエンス・アワード (強靭化大賞)」が創設されました。三重大学が三重県、市町、企業、県民と協働して進めてきた「美し国おこし・三重さきもり塾」と「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」による防災人材育成・実践プロジェクトを応募したところ、全国約200件の応募の中から大変に高い評価を受けて「金賞 (教育機関部門)」を受賞することができました。

みえ防災・減災センター



三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学地域イノベーション研究開発拠点

A 棟 3 階 306 号室

TEL: 059-231-9952 FAX: 059-231-9954

Mail: center@dimo.mie-u.ac.jp

